

宇宙船内服の成果を地上の福祉分野へ

日本女子大学 家政学部被服学科 多屋淑子

宇宙航空研究開発機構(JAXA)宇宙オープンラボ制度により、「宇宙の生活支援研究」を実施(2005～2009年度)し、宇宙で人が安全で快適に生活するための新しい生活関連の技術開発を行いました。

その成果の一つが《宇宙船内服》です。

《宇宙船内服》は、土井隆雄宇宙飛行士のSTS-123ミッション(2008年3月)、星出彰彦宇宙飛行士のSTS-124ミッション(2008年6月)、山崎直子宇宙飛行士のSTS-131ミッション(2010年4月)などにて軌道上で着用され、宇宙飛行士の日常生活を“清潔に・快適に・楽しく”サポートしました。

これらの成果は、福祉分野に至るさまざまな地上の生活にも有用であり、地上の生活を、より“安全安心に・清潔に・快適に・楽しく”するための地上展開を行なっています。福祉分野への応用として、宇宙の生活用に開発した技術に加え、たとえば重度の寝たきりの障害のある場合は、衣服による身体への負担の軽減、着脱のしやすさや素材等の工夫も行ない、衣服を通して、障害のある方および介護する方の日常生活のQOL向上の支援を行なっています。



開発した宇宙船内服

写真提供：
株式会社 J-Space



国際宇宙ステーションで宇宙飛行士により着用された宇宙船内服

写真提供:NASA/JAXA

開発した宇宙船内服の技術を地上の福祉分野へ応用

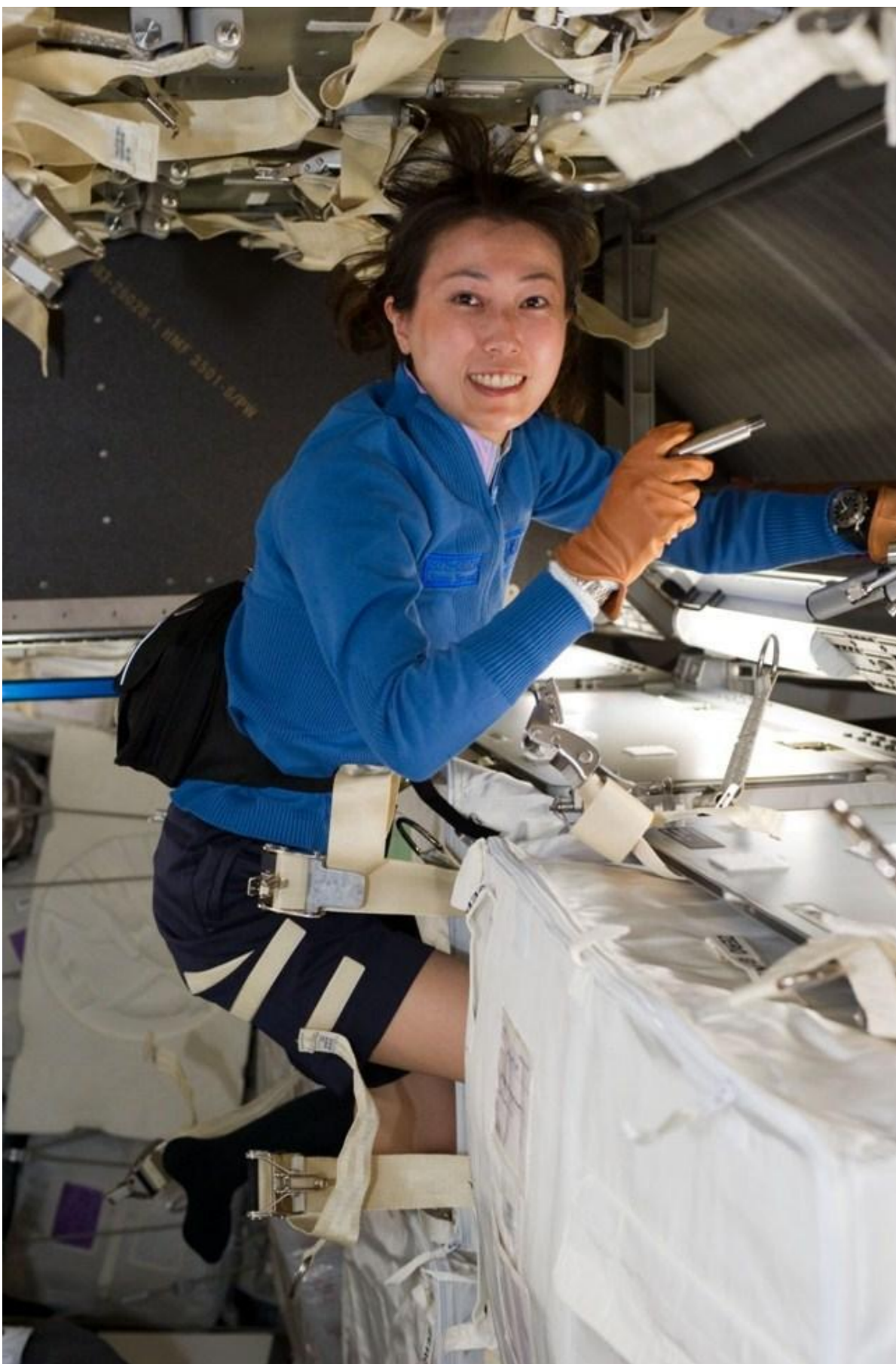
第34回 日本重症心身障害学会学術集会
第4回ファッションショー(2009)
協力:社会福祉法人毛呂病院光の家



土井隆雄宇宙飛行士
写真提供: NASA/JAXA

運動着の技術を
セーターに応用

衣服による身体への圧迫を
軽減し、身体の彎曲を優しく
カバーする縫い目の無い
抗菌・消臭性のセーター



山崎直子宇宙飛行士
写真提供: NASA/JAXA

ズボン用素材を
巻きスカートに応用



清潔さを維持できる効果、
着脱のしやすさ、着心地を工夫

第36回 重症心身障害児学会学術集会
第6回ファッションショー(2011)
協力:東京都立東部療育センター